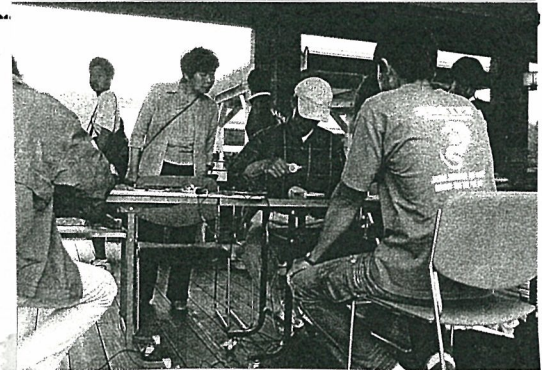


平成19年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	体験型地域交流で森林づくり
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 矢作川源流の森ねば (原 小夜子 0265-49-2848)
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,605,000 円 (うち支援金: 1,560,000 円)

事業内容

- ・10アールの遊休地を耕作し、ブルーベリーの苗をより多くの地域住民と、県内外の住民と協働で行い、除草に地域の間伐材をチップ化して活用することで、地域循環型の森林管理と遊休地の有効利用になる。
- ・ホテルの一角を利用して、間伐材を利用した表札づくりの体験コーナーを開催し、地域住民と県内外住民が間伐材の有効利用を具体的にできる例となり、同時に物づくりの楽しみも味わう。



自己評価 (事業実施率) 【 A 】

事業効果

- ・遊休地にブルーベリーの苗を、地域住民の理解と協力を得、また、県外のグループとも協働で植えつけ、地域の間伐材をチップ化して苗の根元に敷き間伐材の有効利用となる。昨年のブルーベリー畑では、実の生っているものもあり、来年は収穫を機に交流が出来るそうです。
- ・ホテルでの間伐材を利用した表札体験コーナーは16回開催でき約50名。刈谷わんさか祭りで100名余。オムツカピクニックパーティーで146名が体験し好評でした。
- ・また、アイシングループとの交流で、ビッグサイズの看板を手がけました。

【目標・ねらい】

- 間伐材の有効利用
- 遊休地の有効利用
- 体験を通して県内外の住民との交流
- 森林づくりと人の輪づくりを進め、森林管理に対する協働意識を高める

自己評価 (目標達成率) 【 A 】

今後の取り組み

今回の活動を継続し、且つ、根羽スギの間伐材を利用して、根羽村が現在取り組んでいる村の天然記念物「ネバタゴガエル」を主体とした、チエンソーアート作品を作り、材料としての間伐材にさらなる付加価値をつけて活用していく。

矢作川下流域の皆さんは勿論、多くの人達に間伐材の活用を踏まえて、森林の持つ公益的な機能の必要性の理解を推進していく。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。